

新宿通信

NO. 55

令和2年3月17日
東京都立新宿高等学校
進路指導部

- 祝、卒業
- 河合模試の結果
- 春休みを有効に過ごそう

“常識”を疑ってかかれ

英語科 桑波田 悟

みんなは、授業で教わっていること、教科書に載っていること、テレビで報道されることを鵜呑みにしていないだろうか？一つ分かりやすい例を挙げよう。地球温暖化が叫ばれて久しい。地球が温暖化して南極の氷が解け、海面が上昇している。そのせいで、ツバルという国が沈んでいる、という話を聞いたことがないだろうか。NHKで特集番組が2006年の4月に放送された。こんな映像とともに。

映像からは海面が50cmぐらい上がっていることを示しているが、こんな状態が海面の上昇で起こるはずはない。地盤沈下しているところを大潮の時に撮影したものと思われる。それを裏付けるデータが発表された。以下はニュース記事。

【2018年2月10日 AFP】気候変動に伴う海面上昇によって消滅すると考えられてきた太平洋の島嶼国ツバルは、実は国土面積が拡大していたとする研究論文が9日、英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズ(Nature Communications)に発表された。ニュージーランドのオークランド大学(University of Auckland)の研究チームは航空写真や衛星写真を使用し、ツバルの9つの環礁と101の岩礁について1971年から2014年までの地形の変化を分析した。その結果、ツバルでは世界平均の2倍のペースで海面上昇が進んでいるにもかかわらず8つの環礁と約4分の3の岩礁で面積が広くなっている、同国の総面積は2.9%拡大していたことが判明した。論文の共著者の一人ポール・ケンチ(Paul Kench)氏によると、この研究は低海拔の島じょ国が海面上昇によって水没するという仮説に一石を投じるものだという。波のパターンや嵐で打ち上げられた堆積物などの要因によって、海面上昇による浸食が相殺された可能性があるという。(引用終わり)



みんなはどう思つただろうか。最近のテレビ報道は視聴率を稼ぐために、自称専門家の煽りコメントで視聴者の心配をネタにしている感もある。最近の新コロナウィルスによる感染症でも、テレビでの全員検査を良しとする放送に対して、テレビ局と番組名を名指しで厚生労働省がTwitterを用いて反論するという事態も発生している。

これから日本は、人口減少という今まで経験したことのない状況に飲み込まれる。その中で大人になり、日本を支えることになるみんなが目立つ情報に騙されてしまうと、政治も経済も間違った方向に進んでしまう可能性もある。自分たちの未来のために、自分の親のために、自分たちの未来の子供たちのために、情報リテラシーを持った大人になってほしい。世間に流布する“常識”を疑う目を持ち、統計データに騙されず、情報を多角的に取集して、自分なりの意見を持ってくれることをみんなには期待している。

□ 祝、卒業！

大学合格状況(現役生 3/10 現在)

主な国公立大学	主な私立大学（延べ）
信州大（1）	青山学院大（34）
東北大（4）	学習院大（10）
筑波大（4）	北里大（8）
千葉大（6）	慶應義塾大（22）
茨城大（1）	駒澤大（10）
山梨大（1）	芝浦工大（35）
埼玉大（1）	上智大（12）
東京大（2）	成蹊大（7）
東京医科歯科大（1）	専修大（5）
東京外国語大（2）	中央大（58）
東京学芸大（5）	東京女子大（16）
東京工業大（7）	東京農業大（21）
東京農工大（8）	東京理科大（36）
一橋大（7）	東洋大（56）
首都大学東京（7）	日本大（35）
電気通信大（1）	日本女子大（20）
横浜国立大（5）	法政大（74）
大阪大（1）	明治大（90）
お茶の水女子大（2）	明治学院大（18）
国公立大（72）	立教大（49）
	国際基督教大（1）
	昭和薬大（3）
	武蔵野美大（2）
	武蔵野大（10）
	東京薬科大（3）
	早稲田大（60）

1月中旬のセンター試験に始まった今年の受験もいよいよ大詰めを迎えてます。現役生の10日現在の合格状況は表のとおりです(国公立大は前期の人数)。後期

発表は3月20日以降になります。このほか、表には入っていませんが、浪人生も健闘しており、東京大1名、一橋大1名、東工大2名など国立大学に、数多く合格しています。

私大はここ数年、各大学で合格者数の絞り込みが行われており、ことしも早稲田大学・慶應義塾大学をはじめますます厳しい状況になっています。3教科に絞り込んで挑戦しても必ずしも結果に結びつくとはかぎりません。こうした傾向は次年度も続くと思われます。発表はほぼ終わっていますが、繰り上げ合格等で人数が変わる場合があります。私大も表は現役生のみの数ですので、これに浪人生の人数が加算されます。新宿高校としての最終結果は4月に入ってからになります。

3年生諸君、そして浪人して頑張った71回生諸君の努力に拍手を送ります。

希望した進路に進む人。まだ結果が出ていない人。もう一度力をためてチャレンジする人。4月からの進路はさまざまだと思いますが、どれも掛け替えのない自分の人生です。自分の進む道に自信と誇りをもって前を向いて進んでください。

ご卒業おめでとうございます。皆さんの将来に幸多きことをこころからお祈りします。そして再び廻ってきた春に惜別の思いを禁じえません。



○河合記述模試の結果から

2月5日に受けた河合記述模試の結果がまもなく返却されます。難しめの試験でしたが、全体としてはよく頑張っています。本校の平均偏差値は以下の通りです。()内は昨年度の数値です。

	1年	2年
英 語	59.1(60.6)	56.6(55.4)
数 学	56.4(57.2)	52.4(52.0)
国 語	57.9(59.2)	56.3(55.8)
英数国総合	57.8(59.0)	55.1(54.4)

1年生は、昨年度に比べ3教科ともあと一歩でした。皆さんの実力はこんなものではないはずです。学年全体で雰囲気を盛り上げて、それぞれの進路実現にむけ

て努力しましょう。

現2年生は、3教科とも、よく頑張っています。この調子で力をつけてください。ただ2年生の皆さん実力もこんなものではないでしょう。こちらも学年全体で雰囲気を盛り上げて、それぞれの進路実現にむけて努力しましょう。

個々人の成績に関しては、返却される成績資料には分野ごとの学力レベルなどが記されていますので、これを見て「皆ができた、自分ができない分野や問題」を把握し、「どの分野を克服すれば成績が伸びるのか」を確認して「正答できる問題を増やす」ことが必要です。自分の得意分野を自覚したうえで学習計画をたててください。模試はそのように利用してください。得意分野をあぶり出すという意味で、少し難しめの模試を受けることはとても重要です。

また、今回の河合模試では志望校の合否判定が出ていますが、これを見て志望を変えてはいけません。1年生も2年生も、この時期の判定はEが普通です。「E判が出たから志望を下げよう。」というのは言語道断！とんでもない話です。E判から合格する受験生は毎年大勢います。

○学習状況調査から

Classiを利用して「学習・生活状況調査」を行いました。個々の結果は担任の先生との面談等で話題になると思いますが、全体的傾向として二つ考えて欲しいことがあります。

【その1】 平日の勉強時間は十分か。

【その2】 志望校を遠慮していないか。

まず、**【その1】**ですが、平日の勉強時間は「学年+2時間」を目安にして下さい。1年生なら3時間、2年生なら4時間。3年生はもっと多くなります。現状はどうでしょうか。

「悩むことは大切だよ」

京都市立芸術大学名誉教授 彫刻家

15回生 小清水 漢

もし君が、将来美術や音楽などの道に進みたいと思っているなら、この原稿は読まない方が良い。

幸いなことに僕が新宿高校生だったときには、こんな埒もない原稿を読まされることもなかったので、心静か

我が身を振り返ってください。そして、もし確保されていないのなら、何とかして学習時間を増やしてください。時間ばかりはあとに巻き戻すことはできません。

【その2】の志望校は、入れそうな大学ではなく、入りたい大学を書きましょう。不思議なもので、掲げた目標以上の結果を出すことはできないものです。繰り返しになりますが、模試判定は無視し、自分の志望を高く掲げましょう。

今年度は受験を終えたばかりの3年生から話を聞ける「合格速報会」が新コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。先輩達がどんな工夫をして勉強していたか、今後進路通信等で報告していきますので、参考にしてください。

○春休みを無駄に過ごさない

学年末を迎える、1、2年生はほっと一息つきたいところでしょうが、同時に、3年生の受験結果をみて、身の引き締まる思いもしていることでしょう。そんな気持ちになったときがチャンスです。これまでの1年間で取りこぼしている部分、未消化の部分は是非とも春休み中に補っておきましょう。

4月には新入生が入学し、皆さんもひとつ進級して、学校の中心学年として、そして最上級学年として、大切な1年が始まります。

【今後の予定】○卒業式 3/17 火

○修了式 3/25 火

に自分自身の悩みの淵に沈んでいることが可能だった。悩みは自分だけのもの、大切にしなきやね。

新宿高校時代の僕は、表向き音楽好きのテニス少年だった。文化祭では有志を募って高校生向けのオペラ

を上演したり、音楽的才能に溢れた友人のI君のピアノにあわせて、彼の作曲した歌曲を歌ったり、シーベルトの「冬の旅」を歌ったりする日常をおくっていた。

心のどこかで、というより気持ちの殆どで音楽の道に進みたいと願っていたのは確かだった。しかし諸般の事情で歌のお兄さんになる願望は早々に捨てた。

音楽への夢を捨ててはみたものの何処に向かえば良い？まさか他の優秀な友人達のように東大や早稲田を目標にする？とんでもない、そんな方向は音楽を断念する以前に疾くの昔に選択肢から外れていた。

困った僕は、そうだ！美術に行こう！と京都へ行くみたいに決めてしまった。心を決めて美術のY先生のところに行き、美術学校を受験してみようと思います、と告げた。心優しいY先生は、お前なんかに美術大学が受かるわけがない、と即答した。そうですか、と途方に暮れた顔をしていると、まあ放課後美術室で美術部の連中に混じってデッサンでもしてみろ、と許可を頂いた。

美術室には数人の友人達が油絵を描いたり、デッサンをしたりしていたが、殆どが外部の美術受験塾にも通っている風であった。

あいかわらず僕は、美術室よりも音楽室に入りする日の方が多いが、試しに美術受験塾を見学に行ってみた。わりあい僕は決断が早いほうだから、数回通つただけで受験用の美術訓練は自分に向いていないと判断した。

音楽好き少年ではあったけれど、同時に絵を描くのが好き少年でもあった僕は、誰にも気兼ねせず自分の好きに絵を描くことにした。

寛大な新宿高校は、出席日数が足りたかどうか微妙な僕をも卒業させてくれた。卒業式は国立大学の合格発表前だったから、先代林家正蔵のはなむけの人情嘶を聞きながら、皆笑いもなく浮かない顔をしていた。もっとも林家正蔵の落語は笑いを取るのではなく嘶を聞かせるのが特徴なのだから仕方なかったけどね。

当然僕も東京芸大の発表前ではあったけれど、受かる可能性が殆どないのを承知していたから、好きな正蔵の嘶が嬉しかった。

高校を卒業してからも僕は歌を歌い続けた。新宿高校の卒業生を中心のアマチュア合唱団に入って歌い続けていたのだった。東京芸大の作曲科に入った親友のI君の家にも毎週末のように泊まりに行き歌を歌っていた。時にはそのまま一緒に芸大まで行き音楽学部の授業に潜り込んだりもした。

そんなわけだったから東京芸大の美術学部には何度

も落ちた。計4度落ちた。流石に業を煮やした僕の両親は、4度目の受験に際して最後通牒を突きつけてきた。入学するか然もくば働きなさい。あたりまえだよね。

大学に行かなくても美術の勉強をする途はあるよ、などと逃げ打ってはみたのだけれど説得力のあろうはずもなく、ついに東京芸大以外の大学も受験することになった。幸いにして多摩美術大学の彫刻科に入ることができた。

彫刻がやりたかった訳ではなく、彫刻科の定員が一番少なかったからだ。これは万一入学できなかつた場合の言い訳になる予定だった。なんといっても定員が少ないからねエ…。

多摩美大に入学するに際して、僕は心を改めた。現実逃避に歌を歌うことを止めることにした。彫刻というものを自分の真正面に据えてみよう。

それまで手元に増えてきていた楽譜を全て放棄した。唯一ミュージカル南太平洋の楽譜だけ、I君の書棚に置いてもらった。だが50数年を経た今も開いてみたことはない。

彫刻というものを真正面に据えてみて分かったことがある。僕が受験美術の訓練をサボったことは正解だった。美術の基礎などといふものは存在しないし、いわゆる受験のためのデッサンなるものには一利もない。

あるとき敬愛したS先生に尋ねてみた。美術の基礎とは如何に？基礎はない。と即答された。世界を見、世界を識ることが基礎である、と。全くその通りだと思う。

僕は京都市立芸術大学で30数年教鞭を執った。その間入学試験を課す側に居た。入試に際して多くの教員は受験生の技倆を試そうとしている。しかし僕は試されているのは入試を課している側なのだと思う。受験生の資質をどうやって見抜くか、それが試されているのだ。

50数年前の東京芸大には僕の資質を見抜ける人が居なかつたのだろう。誠に僕にとって幸いだった。少し負け惜しみも入っているけどね。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

